

# 養豚とメカセラ水

**肉用家畜**として繁殖用ブタは、生後 8～9 ヶ月で繁殖に用いることができる。妊娠期間は、114 日であり、一回に生む子豚の数は 9～ 15 頭 くらい出産する。この子豚 は、肥育が大型種であり、生後 6 ヶ月で 100～ 110kg くらいになり、食用とされる短期間で生長し繁殖力が強い。 2 年 3 産で廃用にされてるが、運動などをさせて強健に育てれば、5 年で 10 頭も可能である。 また、ブタは、土の中で鼻を使って土がついた芋を土ごと食べてしまう。 消化管は、人間に似た構造で胃に小さなコブがある。 その中に住み着いている細菌の働きで繊維を消化する働きがある。 それで、よい水を与え、給水することによって胃袋と腸の働きに良い影響を与え、生育が良くなる。 さらに、飼料は、雑食性であり、消化管の構造や、エネルギーが水によって左右される。

**現在の畜産**は、穀物による配合飼料が主体であり、ある程度の繊維質が必要といわれている。 単胃家畜である豚は、消化によってたんぱく質等はアミノ酸に分解され、吸収される。 マルチエコのメカセラ水によるヒドロキシルラジカル反応により、生育に関して胃の微生物の活動を促進し、病気に対する抵抗力を高めて、胃の働きを良くし、病気に対する抵抗力が高まるとの研究がなされている。 ミネラル分の豊富な水によって不足するミネラル分やビタミンを補足する効果が研究されている。 消化率を助ける作用、 さらに、臭気にアンモニア等について発生してる場合、空気汚染による副腎皮質ホルモンの分泌が過剰になり、体内のリンパ球が急速に減少する。 リンパ球は、病原菌が体内に入ったときこれと戦う病気を防ぐ役割をする。 温度管理、 舎内空気、 ちり、二酸化炭素、アンモニアガス、湿度調整、バクテリアと感染症の関連性が評価されました。 抗菌剤の開発が進み、1940 年に Florey と Chain によってペニシリンが開発されバクテリア感染症に対する革命が起こった。

**医薬**が進んできたが、バクテリアは、薬物に対する耐性を獲得する能力を持つため、決して終わることのない戦いが必要とされた。 現在、豚インフルエンザによる原因対策として、耐性菌について原因究明中であるが、 ヒドロキシルラジカル反応は、現在、ノロウイルス、レジオネラ均等について制御するシステムがあり、 畜舎内の衛生面に対応する大きな要素とみなされると考察されます。 さらに、刺蠅、蚊、ネズミ、 ゴキブリ、 蠅等が生息しない環境になり、豚に対するストレス予防解消されています。